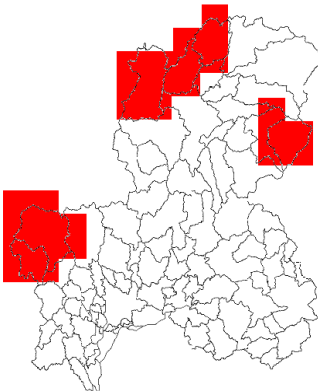


チシマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> Fisch. ex Ser.	準絶滅危惧
		ユキノシタ科
選定理由	分布域の一部において生育条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。	<p>写真(後藤常明)</p> 
形態の特徴	高さ10cm程度の軟弱な多年草。不明瞭な波状鋸歯のある小さな葉は1cm程度で対生し、軟毛がない。偏円形の1mmほどの4萼(がく)片ははじめ黄緑色で平開し、それより短い8個の雄蕊(しべ)がある。裂開前の雄蕊の葯(やく)は淡橙色～肉色。葉腋から出る走出枝が不釣合いに細長いのが特徴。	
生態的特徴	深山の陰湿地の腐葉土上に生育し、花期は4-6月で、冷温帯の落葉樹が葉を広げる前に花をつける。花期に根生葉が残っていることが多く、葉腋から糸のような枝を出してその先に新葉がつく。	
分布状況	北海道、本州(丹波地方以北の主に日本海側)、国外では南カムチャッカ以南、樺太、千島に分布する。岐阜県においては飛騨地方、美濃地方の西部に見られる。	
減少要因	生育地が分断され、生育面積が狭く個体群も極めて小さいため、環境の変化に影響を受けやすい。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項	開発工事の計画には事前調査と注意が必要である。	
参考文献	原 寛(1939)大日本植物誌 ユキノシタ科: p.100-101. 三省堂 佐竹義輔他編集(1982)日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類: p.158-159. 平凡社 大井次三郎(1983)新日本植物誌 顕花編: p.802. 至文堂	

文責: 後藤常明